

28年4月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 1

1. 調査実施期間 平成28年4月1日～ 28年4月10日

2. 調査実施方法

全国の国産材製材工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
4月分の回答企業数は15社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2

したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

ア. 国産材

(1) 製材用原木荷動き動向 Weight. D. I.

品目		28/4月	5月	6月
入荷動向	スギ	33.3	22.2	11.1
	ヒノキ	35.7	7.1	14.3
	カラマツ	△ 50.0	0.0	50.0
	トドマツ	△ 25.0	△ 25.0	25.0
消費動向	スギ	11.1	16.7	16.7
	ヒノキ	21.4	7.1	0.0
	カラマツ	0.0	0.0	0.0
	トドマツ	50.0	25.0	0.0
在庫動向	スギ	21.9	18.8	18.8
	ヒノキ	28.6	14.3	14.3
	カラマツ	0.0	△ 50.0	0.0
	トドマツ	△ 50.0	△ 25.0	25.0

・スギ及びヒノキ原木の入荷は3ヵ月連続して増加。カラマツは4月の減少が、5月横ばい、6月は増加。トドマツは4月、5月の減少が、6月は増加。

・スギ原木の消費は3ヵ月連続して増加。ヒノキ及びトドマツは4月、5月の増加が、6月は横ばい。カラマツは3ヵ月連続して横ばい。

・スギ及びヒノキの原木在庫は3ヵ月連続して増加。カラマツは4月の横ばいが、5月は減少、6月は横ばい。トドマツは4月、5月の減少が、6月は増加。

(2) 製材原木価格動向 Weight. D. I.

品目	28/4月	5月	6月
スギ	△ 33.3	△ 16.7	△ 5.6
ヒノキ	△ 35.7	△ 21.4	△ 14.3
カラマツ	0.0	0.0	0.0
トドマツ	0.0	0.0	0.0

・スギ及びヒノキの原木価格は弱含みで推移。カラマツ及びトドマツは3ヵ月連続して横ばい。

モニターからのコメント

' (原木荷動き)

・未利用間伐の影響で、冬季主伐の原料が不足（カラマツ）。パレットは安定的に受注、梱包用は低調。カラマツは在庫積み増しが出来なかった（北海道）。

・トドマツは、4～5月に国有林入山規制で出材減る。挽き立ては20%増目標（北海道）。

・スギは翌月より仕入れを減らす。生産体制変わらず。在庫もやや減（関西）。

・ヒノキ、足元在庫多い、入荷しぼる。6月までは消費横ばいで推移。夏場に向けて在庫減らす（中国）。

・ヒノキ丸太は順調に入荷、スギは各市場とも出材が少ない。丸太の入荷に合わせて製材している状態、能力的にはまだ余裕がある。ヒノキは入荷が増えた分、在庫が増えた。スギ入荷は変わらず、特に3m柱口と18～20cmは自転車操業の状態（入荷と同時に製材）（中国）。

・出材が増えていることもあるが、製材工場の購買意欲が少なく、入荷しやすい状態。消費は特に変化なし。市場からの引取りが滞っている（中国）。

・原木市場など、記念市シーズンにも入り、天候も良好なことから良材が多量に見込めるのでは。各製材メーカーでバラツキはあるが、余り動き良くないため消費の増加には結びつきにくいのでは（九州）。

・入荷は、天候良好につきやや増。消費は市場悪化につき横ばい。原木下落で仕入増加、在庫やや増（九州）。

(原木価格)

- ・トドマツ高値安定（北海道）。
- ・年初の暖冬の影響でやや下落（関西）。
- ・ヒノキ、横ばいもしくはやや下落と予想（中国）。
- ・ヒノキは全体的に低調（特に今まで高すぎた3m、14～16cmは急にブレーキがかかった。先行きの需要動向を見越して大手から買いを抑えだした）（中国）。
- ・原木単価が下げに入っている（中国）。
- ・天候良く、多量に出すぎて、少しダブついている感あり、大手メーカーにもよるが、やはり天候次第と言わざる得ない（九州）。
- ・製材品の販売不振並びに原木出荷増でヒノキやや下落（九州）。

28年4月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 2

(3) 製材品荷動き動向 Weight. D. I.

品目		28/4月	5月	6月
生産動向	スギ	16.7	16.7	22.2
	ヒノキ	7.1	0.0	0.0
	カラマツ	0.0	0.0	0.0
	トドマツ	50.0	25.0	0.0
出荷動向	スギ	16.7	16.7	11.1
	ヒノキ	7.1	△ 7.1	△ 14.3
	カラマツ	0.0	0.0	0.0
	トドマツ	25.0	0.0	0.0
在庫動向	スギ	△ 5.6	5.6	16.7
	ヒノキ	7.1	28.6	28.6
	カラマツ	—	—	—
	トドマツ	0.0	0.0	0.0

・スギ製材品の生産は、3ヵ月連続して増加。ヒノキは4月のわずかの増加が、5月、6月は横ばい。カラマツは3ヵ月連続して横ばい。トドマツは4月、6月の増加が、6月は横ばい。

・スギ製材品の出荷は、3ヵ月連続して増加。ヒノキは4月のわずかの増加が、5月、6月は減少。カラマツは3ヵ月連続して横ばい。トドマツは4月の増加が、5月、6月は横ばい。

・スギ製材品の在庫は4月の減少が、5月、6月は増加。ヒノキは3ヵ月連続して増加。トドマツは3ヵ月連続して横ばい。

(4) 製材品出荷価格動向 Weight. D. I.

品目		28/4月	5月	6月
スギ	柱角 KD10.5×3	△ 22.2	△ 11.1	△ 11.1
	柱角 KD12×3	△ 27.8	△ 22.2	△ 16.7
	通し柱 12×6	0.0	0.0	0.0
	桁角	△ 7.1	0.0	0.0
	母屋角	△ 14.3	△ 14.3	△ 14.3
	タルキ	△ 14.3	△ 7.1	△ 7.1
	間柱	△ 11.1	△ 5.6	△ 5.6
	ヌキ	△ 7.1	0.0	0.0
	平割	0.0	0.0	0.0
	ラミナ	0.0	0.0	0.0
ヒノキ	柱角 KD10.5×3	△ 14.3	△ 14.3	△ 14.3
	柱角 KD12×3	△ 14.3	△ 14.3	△ 14.3
	土台角 10.5×4	△ 7.1	△ 14.3	△ 14.3
	土台角 12×4	△ 21.4	△ 21.4	△ 21.4
	通し柱 12×6	0.0	0.0	0.0
	ラミナ	△ 16.7	△ 16.7	△ 16.7
カラマツ土台角10.5×4	—	—	—	
〃 梱包仕組み板	0.0	0.0	0.0	
〃 ラミナ	0.0	0.0	0.0	
トドマツサンギ	0.0	0.0	0.0	

・スギ柱角、母屋角、タルキ及び間柱の価格は、弱含みで推移。通し柱、桁角、平割及びびラミナは3ヵ月連続して横ばいないし保合。

・ヒノキ柱角、土台角及びびラミナの価格は、弱含みで推移。通し柱は3ヵ月連続して横ばい。

・カラマツ梱包仕組み板及びびラミナは、3ヵ月連続して横ばい。

・トドマツサンギは、3ヵ月連続して横ばい。

モニターからのコメント

(製材品荷動)

- ・トドマツの出荷は、首都圏の動向次第。生産増と合わせて販売増強（北海道）。
- ・連休前の納期前倒しもあり生産増、荷動きは出て来た印象、出荷が旺盛のため仕入も増やして行く予定につき在庫は維持（関西）。
- ・生産は6月までは横ばい、出荷は3月並で大きな動きなしと予想、仕掛かり在庫を増やす（中国）。
- ・丸太が増えた分、製材量が増えた。連休前後までは荷動きが若干良くなる見込み（梅雨まではそこそこの動きがあるのでは・・・）。製材量が増えたが出荷も上向いたため、在庫はやや増加（中国）
- ・製品の売れ行きが悪く、今いち生産意欲が湧かない。製品荷動き悪い。在庫はやや増加している（中国）。
- ・エリアごとにも若干異なるが、オーダーも落ち着いており、全体的な生産量も一定か、少し落ち込む可能性あり。各ハウスメーカーまちまちな所もあるが、今のところ様子見をしている所多し、外的要因（消費税増税）次第（九州）。
- ・販売不振で生産、出荷はやや減少、在庫はやや増加（九州）。
- ・GWまでは荷動きの気配なし。KD材の荷動きが悪いため、KD材の在庫が増加（九州）。

(製材品出荷価格動向)

- ・スギ、ヒノキは原木価格も下がり、引き合いもあるが、値下げ等の動きは余り感じられず横ばい、当社の取り扱い数量であれば、大きく影響はなし（関西）。
- ・ヒノキ4m、105mm角は少し上がる可能性あり（中国）。
- ・スギ・ヒノキとも相場は余り動かず（中国）。
- ・スギ120mm角の売行きがすこぶる悪い、全般的にスギ柱の荷動き悪い。ヒノキはこれまで維持して来た105mm角でさえ、だぶつき気味で下落が予想される（中国）。
- ・価格やや下落（九州）。
- ・スギ全製品、下げはないものの上げられる気配もなし、GW明けも同じと予想（九州）。
- ・

28年4月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 3

イ. 外材

(1) 製材用原木の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		28/4月	5月	6月
仕入動向	米マツ丸太	0.0	0.0	△ 50.0
	NZラジアータ	△ 50.0	△ 50.0	△ 100.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—
消費動向	米マツ丸太	0.0	0.0	50.0
	NZラジアータ	△ 50.0	△ 50.0	△ 50.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—
在庫動向	米マツ丸太	0.0	0.0	0.0
	NZラジアータ	50.0	0.0	0.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—

・米マツ丸太の仕入は4月、5月の横ばいが、6月は減少。NZラジアータ丸太は3ヵ月連続して減少。

・米マツ丸太の消費は4月、5月の横ばいが、6月は増加。NZラジアータ丸太は3ヵ月連続して減少。

・米マツ丸太の在庫は、3ヵ月連続して横ばい。NZラジアータ丸太は4月の増加が、5月、6月は横ばい。

(2) 製材用原木等購入価格動向 Weight. D. I.

品目	28/4月	5月	6月
米マツ丸太	0.0	△ 50.0	0.0
NZラジアータ丸太	0.0	0.0	0.0
北洋エゾマツ丸太	—	—	—
北洋アカマツ丸太	—	—	—
北洋アカマツ原板	—	—	—

・米マツ丸太の価格は4月の横ばいが、5月は弱含み、6月は横ばい。

NZラジアータ丸太の価格は、3ヵ月連続して横ばい。

モニターからのコメント

(原木荷動)

・NZラジアータ丸太は、不需要時期（4～6月）になるため入荷減（中国）。

(原木価格動向)

28年4月分

製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 4

(3) 製材品の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		28/4月	5月	6月
生産動向	米マツ製材品	0.0	0.0	△ 50.0
	NZラジアータ製材品	△ 50.0	△ 50.0	△ 100.0
	北洋エゾマツ製材品	—	—	—
	北洋アカマツ製材品	—	—	—
出荷動向	米マツ製材品	50.0	△ 50.0	50.0
	NZラジアータ製材品	△ 50.0	△ 50.0	△ 100.0
	北洋エゾマツ製材品	—	—	—
	北洋アカマツ製材品	—	—	—
在庫動向	米マツ製材品	50.0	50.0	0.0
	NZラジアータ製材品	0.0	50.0	50.0
	北洋エゾマツ製材品	—	—	—
	北洋アカマツ製材品	—	—	—

・米マツ製材品の生産は4月、5月の横ばいが、6月は減少。NZラジアータ製材品は3ヵ月連続して減少。

・米マツ製材品の生産は4月の増加が、5月は減少、6月は増加。NZラジアータ製材品は3ヵ月連続して減少。

・米マツ製材品の在庫は4月、5月の増加が、6月は横ばい。NZラジアータ製材品は4月の横ばいが、5月、6月は増加。

(4) 製材品の出荷価格動向 Weight. D. I.

品目		28/4月	5月	6月
米マツ平角		△ 50.0	△ 50.0	0.0
米マツ正角		△ 50.0	△ 50.0	0.0
米マツ小割		0.0	0.0	0.0
北洋エゾマツタルキ		—	—	—
北洋アカマツタルキ		—	—	—
NZ梱包材(割板)		△ 50.0	△ 50.0	△ 50.0
NZ梱包材(割角)		△ 50.0	△ 50.0	△ 50.0
NZ土木用材		0.0	0.0	0.0
その他		—	—	—

・米マツ平角及び正角の出荷価格は4月、5月の弱含みが、6月は横ばい。小割は3ヵ月連続して横ばい。

・NZ梱包材(割板・割角共)の出荷価格は弱含み。土木用材は3ヵ月連続して横ばい。

モニターからのコメント

(製材品荷動き)

・NZラジアータ製材、生産調整する(中国)。

(製材品出荷価格動向)

・NZラジアータ製材品は需要減で、やや下落(中国)。